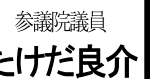




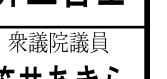
市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



衆議院議員
藤野保史



参議院議員
たけだ良介



参議院議員
井上哲士
衆議院議員
笠井あきら

子どものインフルエンザ予防接種 助成拡充

1回3千円 高校生等まで

9月議会補正予算

小矢部市は9月議会に提出した補正予算で、子どものインフルエンザ予防接種助成を今年度当初予算に比べて拡充します。対象を高校生等に広げ、1回3千円に助成額を増やします。長期化するコロナ禍において、インフルエンザとの同時流行を抑制し医療機関の負担軽減を図るためとしています。補正予算額は295万1千円で、財源に国から来る地方創生臨時交付金を充てます。

これまでの経過

小矢部市は県内で先駆けて2017年度から中学生までを対象に子どものインフルエンザ予防接種に1回2000円(小学生までは2回分)の助成制度をつくり、保護者の皆さんから喜ばれていました。新婦人小矢部支部の提案に、議会でも取り上げられ実現したものです。インフルエンザ流行期に県内でも学級閉鎖が少なく、その効果が明らかでした。

20年9月議会

昨年(20年)9月議会では市は県とタイアップして子どものインフルエンザ予防接種事業を改善し、高校生等までを対象に、無料で受けられるようにしました。この拡充は新婦人の会の署名に寄せられた市民の声が政治を動かしたものです。市議会では砂田市議をはじめすべての会派が要求していました。しかしこの予算措置は2020年度限りの臨時的な措置でした。

助成制度の拡充内容

小学生 21年度当初予算では1回2000円だったものを、3000円に拡充(小学生までは2回分)。
高校生等 当初予算では助成無しだったが、3000円を補助する。
生後6カ月から未就学児 県の事業で1回3000円を助成

20年度当初予算

助成額の半減を予算化 新婦人小矢部支部が 「削減反対」の署名運動

ところが市は財政危機を理由に2020年度からこの助成額を千円に削減する予算にしました。これに対して新日本婦人の会小矢部支部の皆さんが市長に500名を超える署名を添えて削減しないよう要請しました。



21年度当初予算

小中学生に1回2千円を 22年度から半額に削減

今年(21年)の当初予算では、中学生までに1回2千円(小学生までは2回分)の助成をするが、22年度からは1回1千円に減額することにしていました。高校生等には助成無しでした。

米価下落対策を請願

農民連小矢部班



藤本議長(左から2人目)、加藤副議長(左端)に請願する農民連辻慶輝班長(右から2人目)=8月30日、市議会議長室

過剰米を買い入れ、生活困窮者に食糧支援を

コシヒカリの農協の買い入れ価格(仮渡し金)が60キロあたり1万1千円で昨年より2千円も下がり、農家や集落営農組織、大規模農家の経営に深刻な影響が出始めている。農業後継者不足に拍車を掛けることにもなります。

国への要望項目

- 1, コロナ禍の需要減少による過剰在庫を政府が買い入れ、コメの需給改善、米価下落に歯止めをかけること。
- 2, 政府が買い上げたコメは、生活困窮者の支援に活用すること。
- 3, 外国産米の買い入れについては、国内需要供給状況に応じて輸入数量調整を実施すること。

コロナ禍で「コメを買えない」「学生や困窮者への支援を」

コロナ禍のもと、外食産業などのコメの需要が減っていますが、その一方でバイトを失った学生や生活困窮者らにとって「コメを買えない、食べられない」現実があります。日本民主青年同盟などは富山大学や県立大学での食糧支援を行っています。一番喜ばれているのがコメです。農家の皆さんからもコメを提供しました。

小矢部市も北陸農政局に要望

小矢部市としても北陸農政局に米価対策として過剰米を買い入れて生活困窮者への食糧支援を国として行うよう申し入れをしました。市農林課長によると「コメの消費拡大、各種支援への過剰米の使用などについて北陸農政局としても重要課題として認識している。小矢部市からの要望を受け止め組織の内部で共有したい」と回答されたそうです(8月2日、市議会総務産業建設常任委員会)。藤本議長はこの申し入れに参加していたとして「その内容は承知している」と答えました。

請願に参加した農民連の皆さんは、ぜひ市議会としてこの意見書

を採択して欲しいと重ねて要望しました。

